

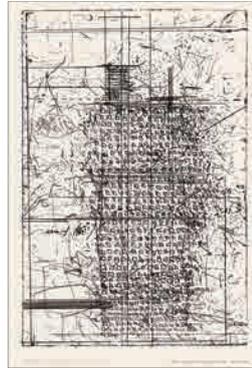
2019年4月中旬発売予定

定価:9,800円(税別)

# 大竹伸朗 ビル景 1978-2019

未発表から最新作まで約40年で制作された  
『ビルのある風景』ビル景 全作品830点

付録:特製活版画  
(240 x 350mm) 封入



活版印刷スリーブケース入り

B4判/322ページ/ソフトカバー/活版印刷スリーブケース入り  
執筆:大竹伸朗、保坂健二郎(東京国立近代美術館)  
デザイン:小関学(Edit.35) 協力:Take Ninagawa



《放棄地帯》2019年



《ビル/赤》2005-08年



《白壁のビル2》2017年



《Bldg. 青》2003年

© Shinro Ohtake, Courtesy of Take Ninagawa, Tokyo

常にその制作活動が惹きつけて止まない画家・大竹伸朗が、1978年から2019年現在まで約40年間継続して制作を続けている「ビルディング・シリーズ」=「ビル景」全作品を収めた画集が出来上がりました。

「ビル景」はその大半が実在の風景の写実ではなく、香港やロンドン、東京といったさまざまな都市の記憶と、意識的・無意識的に断続的に現れる「ビルのある風景」やそこに伴うイメージによって描かれた作品です。2000年代に行われたいくつかの展覧会での経験から、作家自身が3年余りかけ「ビル景」作品を調査し、集められた全作品830点を時系列で収録しました。

「続けようとするよりも続いていってしまう事柄の中に探しものはいつも隠れている」と自身が綴るように、ひとりの作家の画業約40年の作品群からは、その時折々の環境や心情による変化が垣間見えると同時に、一貫して変わらぬ制作意欲と、得もいわれぬ圧倒的な説得力を持ちます。B4サイズという大判の判型により質感や作品の細部まで再現され、活版印刷を施した装丁や、封入された特製付録「活版画」は、印刷物にこだわりのある読者にも満足の一冊となりました。保坂健二郎氏(東京国立近代美術館)による、新しい角度からの大竹伸朗「ビル景」論も必読です。

\* 大竹伸朗「見えない音、聴こえない絵」『新潮』2019年4月号

大竹伸朗(おおたけ・しんろう) ■1955年、東京生まれ。1980年代初頭より国内外で作品発表を開始。2006年初回顧展「大竹伸朗 全景 1955-2006」(東京都現代美術館)以降、東京、香川、ソウル、ロンドン、シンガポール等で個展。光州ビエンナーレ(韓国)、ドクメンタ(ドイツ)、ヴェネチア・ビエンナーレ(イタリア)、横浜トリエンナーレ、瀬戸内国際芸術祭はじめ国内外の企画展に参加。1986年に初作品集『《倫敦/香港》一九八〇』(用美社)刊行後、作品集や著作物、CD等多数発表。主な著書にエッセイ集『見えない音、聴こえない絵』『ビ』『ナニカトナニカ』(共に新潮社)、『既にそこにあるもの』、『ネオンと絵具箱』(共にちくま文庫)、絵本『ジャリおじさん』(福音館書店)等。エッセイ「見えない音、聴こえない絵」は月刊文芸誌『新潮』に現在も連載中。2014年芸術選奨文部科学大臣賞受賞。ohtakeshinro.com

展覧会 大竹伸朗 ビル景 1978-2019 会期:2019年4月13日(土)-6月16日(日) 会場:熊本市現代美術館

▶ご注文はツバメ出版流通まで FAX: 03-3721-1922

mail:info@tsubamebook.com

TEL:03-6715-6121 http://tsubamebook.com

貴店名(番線印)	新刊	HeHe	www.hehepress.com mail: info@hehepress.com
	注文数		返品条件付注文扱い 返品了解 ツバメ出版流通:川人
ご担当: 様	大竹伸朗 ビル景 1978-2019		
	ISBN978-4-908062-26-1 C0071 定価:本体9,800円(税別)		